dCS

Debussy

DAC

Stereo Digital to Analogue Converter
with asynchronous USB Interface

取扱説明書

Software Release 2.0x

株式会社太陽インターナショナル
〒 103-0027 東京都中央区日本橋 2-12-9
日本橋グレイス 1F
Tel : 03-6225-2777 Fax : 03-6225-2778
<URL> http://www.taiyo-international.com

目次

ご使用になる前に（安全にお使いいただくために）.....3

初めてのドビュッシー DAC.....4

梱包.....4
安全のための注意.....4
AC 電圧設定.....4
電源ケーブル.....4
メインコンディショナー.....4
設置.....5

セットアップガイド.....6

最初に.....6
リモコンに電池を取り付ける.....6
STEP 1：デジタル入力を選択する.....7
USB インターフェイスとの接続.....7
シングル AES、SPDIF との接続.....8
デュアル AES ソースとの結線.....9
STEP 2：USB ソースとの設定.....10
音楽演奏ソフトウェアについて.....10
ドビュッシー DAC をオーディオ出力デバイスとして選択.....10
STEP 3：アナログ出力の接続.....11
プリアンプをご使用の場合.....11
パワーアンプに直接接続する.....11
システムクロックを使用する.....12

フロントパネル.....13

リアパネル.....16

リモコン.....18

メンテナンス 19
ヒューズの交換 19
ヒューズを交換する 19
保証 20
使用環境 20
ソフトウェア・アップデート 20
ソフトウェア 21
ソフトウェア・イシューの確認方法 21
ソフトウェア・アップデート 21

仕様 22

問い合わせ先 23

ご使用になる前に（安全にお使いいただくために）

本機をご使用になる際には、安全上のご注意をよくお確かめ下さい。
以下の注意事項は安全にお使いいただくために大切な内容です。必ず守るようにして下さい。

⚠警告：誤って取り扱うと、死亡や重傷などに結びつく可能性があります。

⚠注意：誤って取り扱うと、傷害または物的損害などの発生に結びつく可能性があります。

［設置上のご注意］

⚠警告

・定格電圧AC 100V にてご使用下さい。
・付属の AC 電源ケーブルは、本機専用ケーブルですので他の機器に使用しないで下さい。
・ケーブル等の接続はこの取扱説明書に従って確実に行って下さい。不完全な場合には接触不良を招き、火災の原因になります。
・AC電源ケーブルをコンセントから抜くときは、プラグを持って抜いて下さい。コードを無理に引っ張ったりして抜くと断線または接触不良を招き、感電や火災の原因になります。
・AC電源ケーブルを無理に折り曲げたり、引っ張ったり、ねっじったり、継ぎ足す等の加工は行わないで下さい。火災や感電の原因になります。
・本機の改造や部品の変更は絶対しないようにして下さい。火災や感電、故障、ケガの原因になります。
・水など塗れた手で電源ケーブルを抜き差ししないで下さい。感電の原因になります。
・本機内部に水をこぼしたり、ピン等の金属類を入れないで下さい。感電や火災の原因となります。
・万一、煙が出たり変な臭いがするなどの異常状態が起きた場合は、すぐにAC電源ケーブルを抜き、異常状態がおさまったことを確認してからお買い求めの販売店、または当社サービス課まで修理を依頼して下さい。そのまま使用すると、火災・感電の原因になります。

⚠注意

・本機を設置する際にはこの取扱説明書に従って確実に行うようにして下さい。
・本機の取り出し、及び設置する際には細心の注意をし、慎重に行うようにして下さい。落下等でケガや物損を招く原因になります。
・湿度の多い場所で使用しないで下さい。結露等により故障の原因となります。
・ゴミやホコリの多い場所では使用しないで下さい。
・室内温度が5℃～40℃の範囲でご使用下さい。
・振動が多く、水平でない場所には設置しないで下さい。機器の落下等でケガや物損を招く原因になります。
・オーディオラック等に納めてご使用になる場合、通風をしっかり取るなど熱のこもりには充分注意して下さい。故障の原因になる場合があります。

［お手入れについて］

・本体の汚れは、柔らかい乾いた布（シリコンクロス等）で軽く拭き取ってください。ベンジンやシンナーなど揮発性の薬品のご使用は、絶対におやめください。本体の表面が変質する恐れがあります。

⚠注意

・リアパネルの端子等のお手入れの際には、必ずAC電源ケーブルを抜き電源をお切り下さい。感電の原因となることがあります。

初めてのドビュッシー DAC

使用前に本項および「セットアップガイド」（P.6）をぜひお読みください。効率的にかつ安全にシステムを設定するのに役立ちます。

将来 dCS は必要に応じソフトウェアを更新しています。本機は CD-ROM によって、ご自身でアップデートできるように設計されております。ソフトウェアが更新されたときに、ご連絡いたしますので、保証登録は必ずなさってください。

梱包

本機の梱包には下記の物が入っています。

・ドビュッシー DAC 本体
・マニュアル
・保証登録書
・パワーケーブル
・USB ケーブル
・ヒューズ（スペア）
・プレミアムリモコン

上記リストに照らし合わせて内容を点検ください。損傷があったり、部品の欠品があった場合にはすぐに販売店にお知らせください。本機の梱包材は箱を含め保管なさることをお願いします。

本機の保証カードは愛用者カードでの登録後、お手元にお届けいたします。

安全のための注意

本機のサービス用パーツは供給されておりません。ユーザーご自身で本体の分解、または内部を開けることなどは危険です。本機自体が不具合である場合には販売店にご相談ください。

AC 電圧設定

初めて本機をセットするとき、ご使用の電圧と合致しているか再度ご確認ください。本機は 50 ／ 60 サイクルどちらにも対応します。リアパネルの AC 入力部の下に電圧表示があります。万一ご使用の電圧と表示が異なる場合には決して本機をご使用しないで下さい。電圧が異なる場合、致命的な損傷を本機に与えかねませんし、保証の対象外となります。また電圧変更をご自身でなさらないでください。

電源ケーブル

常識的な AC ケーブルをご使用ください。一部のオーディオファイル用パワーコードは必要以上に重く、入力部を破損しかねません。この場合には保証対象外となりますので、十分ご注意ください。

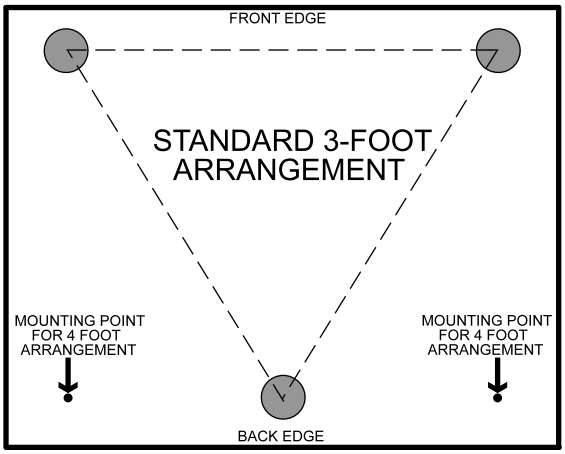
メインコンディショナー

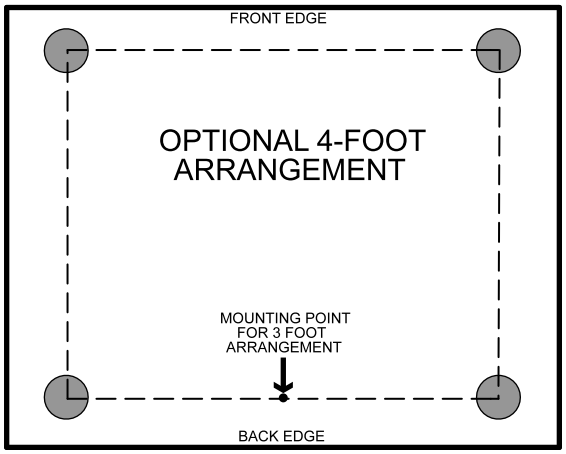
メインコンディショナー、クリーン電源等の使用は推奨いたしません。メインコンディショナー、クリーン電源等の使用によって本機が故障した場合、保証対象外となりますのでご注意下さい。

設置

ドビュッシー DAC は積み重ねて使用することは可能ですが、一台ずつラックで使用したほうがより良い音質が得られます。しっかりした、振動しない棚板に載せ、他のシステムとの接続にはケーブル類はある程度の余裕を持って接続してください。またオーバーヒートを防ぐために本機の周囲には適度なスペースを空けることを心がけてください。

ドビュッシー DAC は3個の足が標準で付いています。オプションで4点にすることも可能です。
ご必要であれば、販売店もしくは当社までご連絡下さい。





セットアップガイド

基本的な動作のためのセットアップガイドです。

最初に

本項はメニュー構造詳細についてのチャートと、一般的なセットアップを説明します。

デジタルインターフェイスについては、デジタルオーディオ用にきちんと設計されているケーブルをご使用ください。

- AES/EBU インターフェイスには 110Ω、ツィステッドペア、XLR(M)-XLR(F) コネクターをご使用ください。
- ワードクロックインターフェイスには 75Ω コアキシャル BNC ケーブルをご使用ください。
- SPDIF RCA インターフェイスには 75Ω コアキシャル RCA プラグで端末処理されたケーブルをご使用ください。
- USB インターフェイスは USB タイプB（スクリーンタイプ）ケーブルをご使用下さい。

アナログ出力については、オーディオ用にきちんと設計されているケーブルをご使用ください。

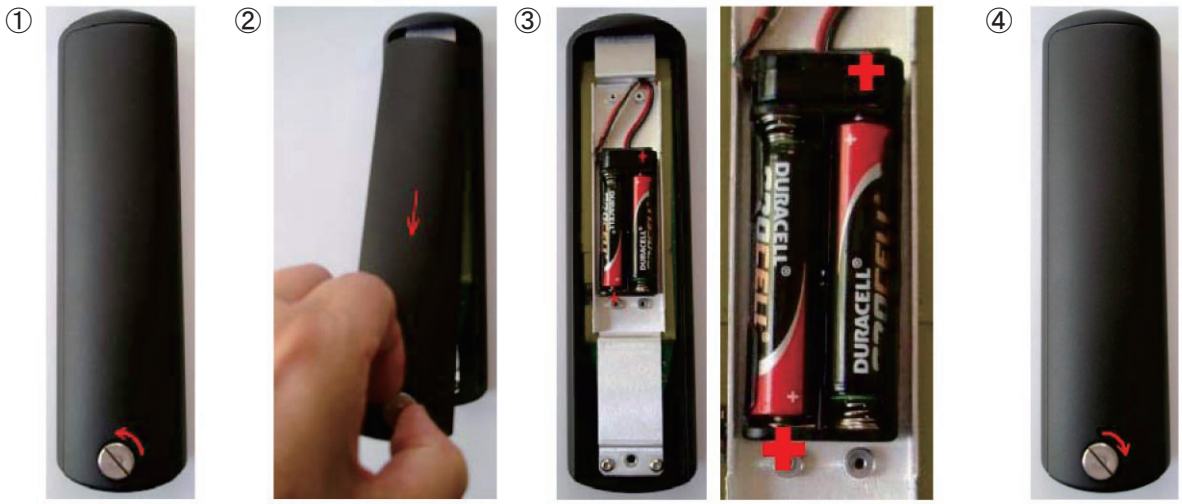
- バランス端子 (XLR) には、ツィステッドペア、XLR(M)-XLR(F) コネクターをご使用ください。
- アンバランス端子 (RCA) には、コアキシャル、RCA プラグで端末処理されたケーブルをご使用ください。

本機リアパネルの電源入力に付属の電源ケーブルを接続し、電源を入れる準備をします。

重要：必要以上に重く太いケーブルは入力ソケットを損傷する場合がありますので、ご使用にならないで下さい。この場合の入力ソケットの損傷は保証の対象外です。

リアパネルの電源スイッチを | の位置にセットします。**Power** ボタンを押すと約 30 秒間で本機はセルフチェックを行います。

リモコンに電池を取り付ける



① 小さなコイン等を使って、裏面のネジを開ける。
② ネジを持ちスライドさせ、プレートを取り外す。
③ 単4サイズ電池を図の通りに +/- を正しく取り付ける。
④ 裏面のプレートを取り付け、ネジを閉める。

STEP 1：デジタル入力を選択する

ソース機器のスイッチを「ON」にします。ディスクまたはテープを機器にセットし、プレイモードにします。

USB インターフェイスとの接続

USB インターフェイスは Windows Vista、XP (SP2)、Mac OSX (10.5.4 以上) の PC、PCM データを送るサウンドサーバーに接続できます。

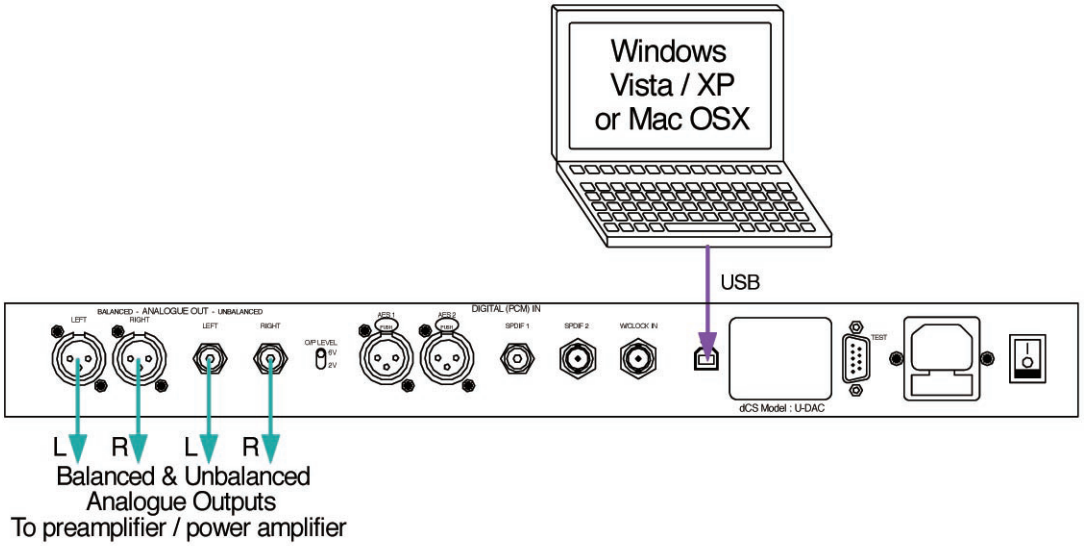


図 1：USB 端子の接続

・コンピューターの USB ポートをドビュッシーのリアパネル USB ポートに接続。
・USB 入力インジケーターが点灯するまで INPUT（インプット）ボタンを数回押します。ソースが PCM データを送ってきた場合には、ドビュッシーはソースにロックします。適切なサンプルレートインジケーターが点灯します。

ドビュッシー USB インターフェイスはエイシンクロノスモードで駆動します。即ち、ドビュッシー内部のクロックがコンピューターから送られてくるデータを制御するということです。これによって、コンピューターの不正確でジッターの多いクロックを使用しないで済むのです。

Step2　へ進む

シングル AES、SPDIF との接続

ほとんどの CD トランスポートや DVD プレイヤーなどのソース機器はシングルケーブル出力、通常 RCA 出力などに対応しています

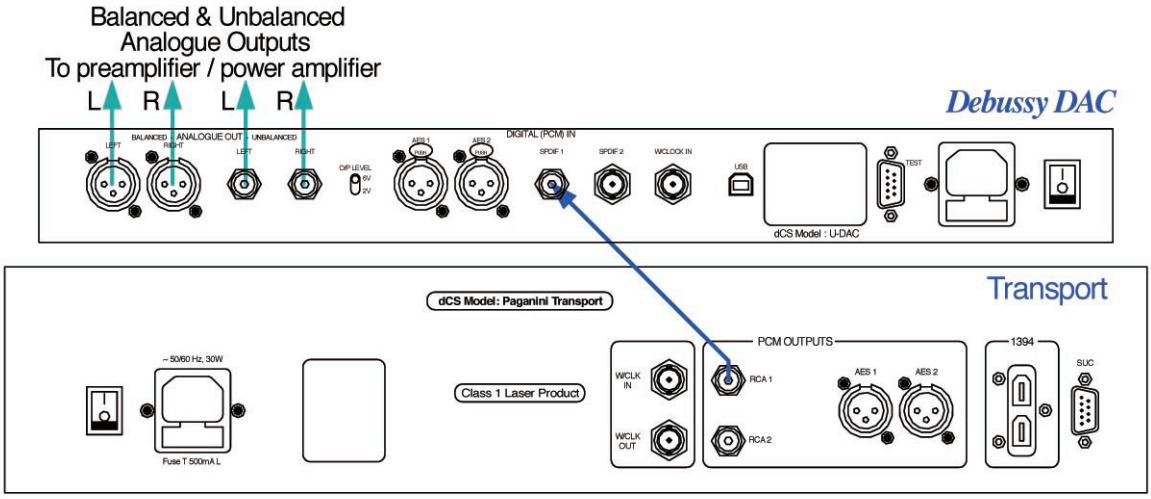


図 2：SPDIF 端子の接続

・ソース機器（トランスポート等）の出力から DAC の適切な入力端子に接続します。
・Input ボタンを数回押し、適切な入力を選択します。AES1, AES2, RCA1, RCA2 のどれかです。

ソースが起動していれば、ドビュッシーは入力ソースとロックし、適切なサンプルレートインジケーターが点灯します。

Step3 へ進む

デュアル AES ソースとの結線

ソース機器がデュアル AES 機能を備えていることをまずご確認ください。

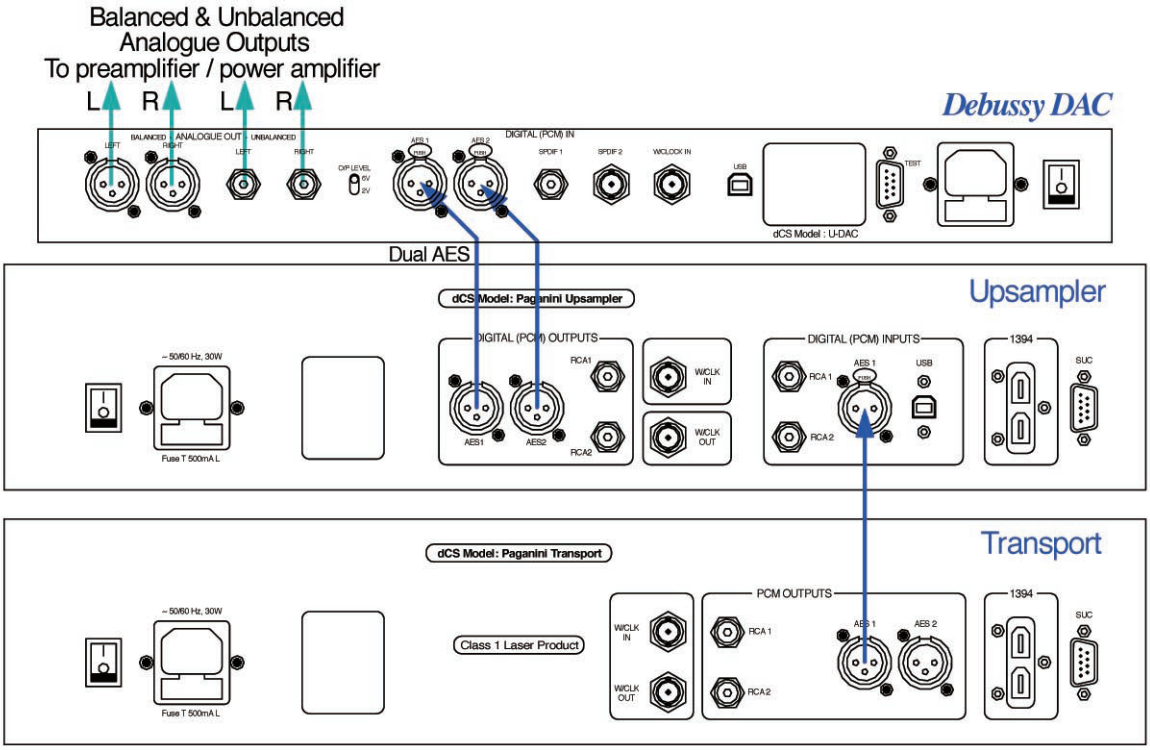


図 3：Dual AES の接続

・ソース機器（トランスポート等）の AES1（または AES A）出力を DAC リアパネルの **AES1** 入力に、AES2（または AES B）出力を **AES2** 入力に AES/EBU ケーブルで結線します。ケーブルが AES1(A) 出力→ **AES1**、AES2(B) → **AES2** と正しく結線され、逆に入力していないことを確認します。

・**Input** ボタンを、**AES1**、**AES2** の両方のインジケーターが点灯するまで数回押します。ソース機器が動作していれば、ドビュッシーはソース機器にロックし適切なサンプルレートインジケーターが点灯します。

Step3 へ進む

STEP 2：USB ソースとの設定

USB インターフェイスは Windows Vista、XP (SP2)、Mac OSX (10.5.4 以上) の PC、PCM データを送るサウンドサーバーに接続できます。

USB をご使用にならない方は Step3 へお進みください。

音楽演奏ソフトウェアについて

多くのプログラムは Windows や Mac OS X の PC で演奏できます。全てのものが USB ポートに接続するよう処理されたデータとは限りません。例えば、ウィンドウズ メディアプレーヤーは全てのデータをオリジナルのデータが何であれ、24 ビットにリサンプルします。一方 iTunes レートは出力サンプルレートに必要なサンプルレート (OS X オーディオセットアップパネルによって設定される) に変換します。

このようなソフトウェアの広がりは、また毎日発行されるアップデートなどによってプログラムのパフォーマンスと属性を毎日完全にアップデートすることは、dCS にとっては不可能です。もし疑問点、問題点がありましたら、ソフトウェア管理会社にお尋ねになるようにお願いします。
私たちに申し上げられることは、異なるプログラムは全く異なった運行動作を行い、またご使用のプログラムがどのようにオーディオ信号を処理するかをご理解することは、無駄にはならないと考えるからです。

プログラムで注目に値する問題は、人気のある iTunes を Windows で使用したときです。初期設定の出力ワードレングスは 16 ビットで、正しい動作のためには 24 ビットに変換されなければなりません。そのためには、" **スタート** " > " **コントロールパネル** " > "**Quicktime**" をクリックします。Quicktime パネルの " **オーディオ** " タブをクリックし、" **サウンド出力** " セクションの " **サイズ** " フィールドの中の "**24bit**" を選択します。

ドビュッシー DAC をオーディオ出力デバイスとして選択

どの音楽プログラムをご使用になっても、コンピューターは自動的にアップサンプラーを最適プレーバックデバイスとして選択しないかもしれません。その場合以下の方法で修正します。

Windows XP：本機を接続したら、電源を入れ、" **スタート** " > " **コントロールパネル** " > " **サウンドとオーディオデバイス** " に進みます。 " **オーディオ** " タブをクリックし、ドロップダウンリストの " **音の再生** " 内から "**dCS Debussy**" を選択します。デバイスリストをデフォルトします。

Windows Vista / Windows 7：本機を接続したら、電源を入れ、" **スタート** " > " **コントロールパネル** " > " **ハードウェアとサウンド** " > " **サウンド** " に進み、パネルに表示された " **再生** " タブをクリック、"**dCS Debussy**" が選択可能なデバイスリストに表示されます。
最良の結果を得るには "**Sample Rate**" をファイルのそれと同一のものにセットします。

Mac OS X：本機を接続したら、電源を入れ、"**Finder**" を開き、" **移動** " タブをクリックし、" **ユーティリティ** " を選択。ユーティリティーパネルの中から "**Audio MIDI 設定** " を選択、MIDI パネルセットアップパネル内の " **オーディオ装置** " クリックします。ドロップダウンリスト " **システム出力** " から "**dCS Debussy**" を選択。同じパネルの中から "**dCS Debussy**" をデフォルトにセットすることもできます。
最良の結果を得るには "**Sample Rate**" をファイルと同じにします。

Step3 へ進む

STEP 3：アナログ出力の接続

注意：輸送中にリアパネルの出力レベル切り替えスイッチが変わってしまっている場合もあります。ご希望のレベルより小さかったり大きい場合があります。それを防ぐにはリアパネルの O/P Level スイッチを切り替えます。

バランス、アンバランス出力はそれぞれ個別にバッファーされています。両チャンネルとも異なるアンプに接続することが可能です。以下のどちらかをお選びください。

プリアンプをご使用の場合

- プリアンプのボリュームコントロールを最低（0）にします。
- バランス、RCA シングルエンドのどちらかを使用し、プリアンプの入力と本機の出力を結線します。
- 本機の **Vol+** ボタンを 10 秒押し続けボリュームを最大にします。これは 7 つのサンプルレート LED が 5 秒間点灯することで確認できます。(図 4 参照)
- プリアンプのボリュームコントロールで音楽レベルを最適にします。
- お望みのボリュームレベルには低すぎるか、高すぎる場合にはリアパネルの **O/P Level** スイッチにて調整することができます。

注意：O/P Level スイッチを 6V にセットすると、プリアンプによってはオーバーロードとなって歪む場合があります。そのため、プリアンプをご使用の場合には 2V 設定をして調整されることをお勧めします。

パワーアンプに直接接続する

- 本機の **Vol−** ボタンを 10 秒押し続けボリュームを最小にします。これは、7 つのサンプルレート LED が数秒間消えることで確認できます。(図 4 参照)
- パワーアンプの電源がオフの状態で、本機の出力端子、(XLR または RCA) のどちらか一方をパワーアンプに接続します。
- パワーアンプの電源を入れます。
- 音楽を演奏し、最適の音量になるまで **Vol+** を押し続けます。ボリュームが上がるに従ってサンプルレートインジケーターが以下（図4）のように点灯していきます。

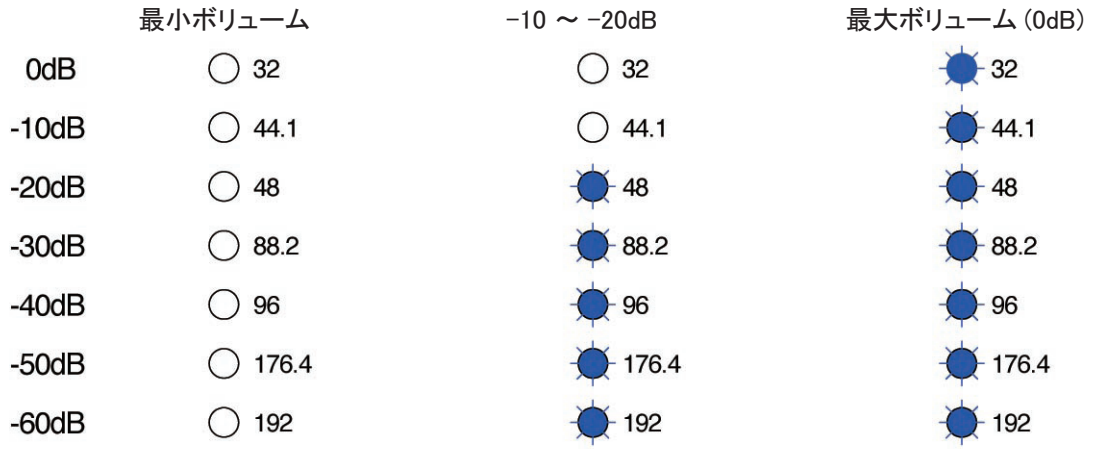


図 4：ボリュームインジケーターの表示

- 出力レベルスイッチを 6V にする方が通常好ましい結果が得られます。しかしこれはシステム全体とのバランスを考慮して決定してください。も、設定が 2V でボリュームレベルがほとんどの音楽に於いて −20dB の場合には、パッシブアッテネーターなどが必要かもしれません。その場合は販売店にお問い合わせください。

Step4 へ進む

システムクロックを使用する

PCM 入力を使用して、ソース機器からのクロックによってシステムが設定されている場合が一番シンプルな接続でしょう。しかし、クロックジッターのためにこの方法は最良とは言えません。

ソース機器がワードクロックまたは USB インターフェイスに接続されロックされている場合、パガニーニクロックを使用することでさらに音質が高まります。

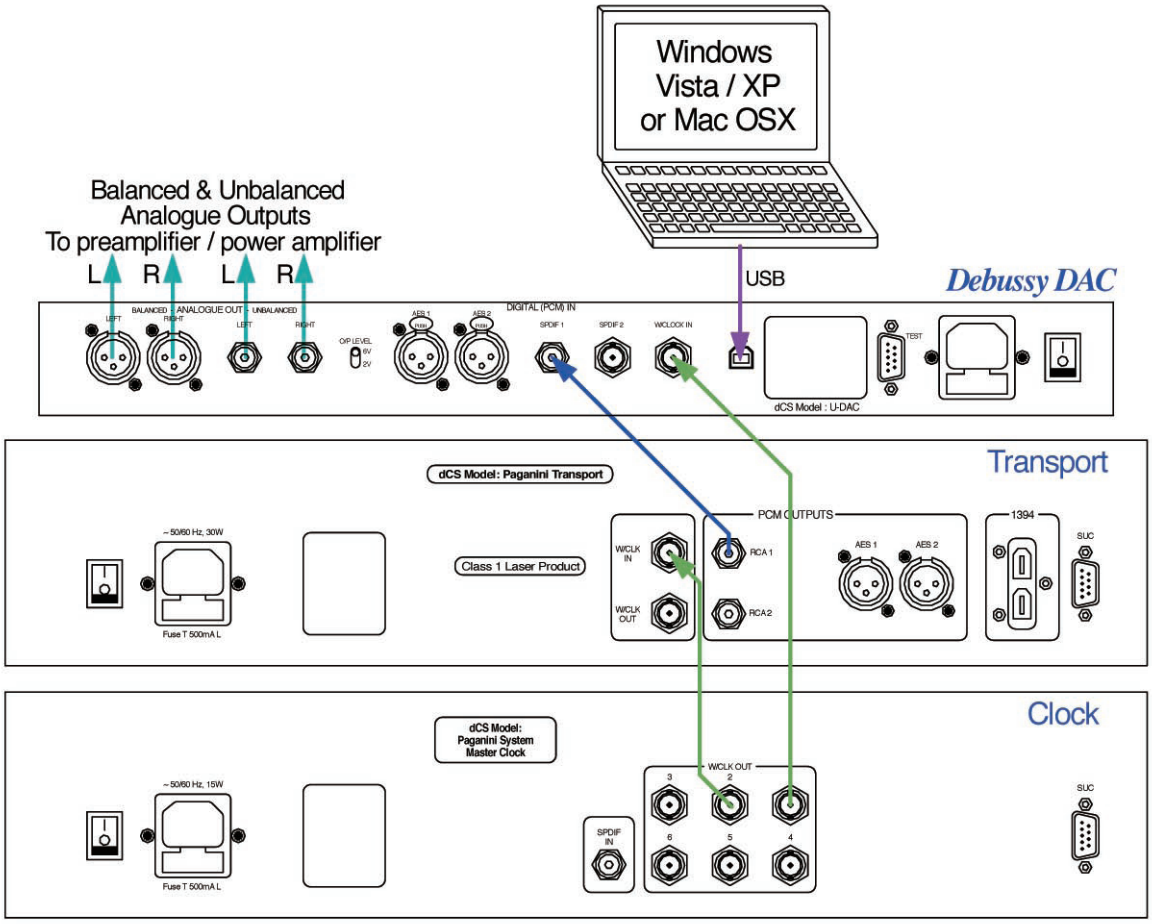


図 2：パガニーニトランスポート、クロックをドビュッシー DAC と使用した場合

・W/Clk Outputs の出力端子 2 個から、トランスポート、ドビュッシー DAC の W/Clk In に接続します。
・Frequency（クロック周波数）ボタンによって出力を 44.1kHz に設定します。

システムクロックご使用の場合にはクロックのマニュアルをご参照ください。

フロントパネル

図 6：フロントパネル

(A) POWER ボタン

本機の電源を入れます。リアパネルのパワースイッチを I にします。これで本体に電源が入ります。次にこのボタンを押します。左側の LED が点灯します。オンオフはリモートコントロールでは出来ません。

本機をスリープモードにするには POWER ボタンを一度押します。左の LED は暗くなります。その他の LED は消えて、アナログ出力はミュートされます。この状態で本機は駆動しているのと同等の温度になっています。スリープを解除するにはもう一度このボタンを押します。

スイッチオフにするには POWER ボタンを 3 秒以上押し続けます。

(B) (C) VOL +/− ボタン

本機のボリュームは −60dB~0dB までのレンジを 0.5dB のステップでコントロールします。Vol+ ボタン (B) を押し続けるとボリュームが上がり、Vol− ボタン (C) を押し続けると音量は下がります。リング DAC はリニアリティーに優れるモノですが、通常のリスニングレベルを −20 ～ 0dB に設定すると最良の音質が得られます。ボリュームが調節されている時にはサンプルレート LED (K) が 10dB ステップで大まかな音量レベルを表示します。

(D) MUTE ボタン

MUTE（ミュート）ボタンはアナログ出力をミュートします。本機がミュート状態の時 (マニュアルでミュート時、またはソース機器がロックされていないとき) にはミュートボタンの左側の LED が点灯します。

(E) FILTER ボタン

FILTER（フィルター）ボタンによってイメージフィルターを選択します。2 つのフィルターはほぼ同等の振幅反応をしますが、異なった位相反応を示します。
ボタン左側のインジケーターがオフの場合にはシャープなクラシックフィルター (通常のフィルター) で、リニアフェーズ、プリリンギングです。一度ボタンを押すと異なるフィルターになります。このフィルターはノンリニアフェーズでプリリンギングではないフィルターです。インジケーターは点灯し、異なったフィルターが使用されていることを示します。

フィルターの選択は個人の個性、好みによりますので、音楽をお聴きになりながら決定します。また、音楽によってもフィルターの好みは変わるかもしれません。本機は最後に選択されたフィルターをどのサンプルレートを選択しても記憶しております。

(F) PHASE ボタン

PHASE（位相）ボタン左のインジケーターがオフの時、デジタルデータに対し全てのアナログ出力は、正相となっています。逆相にするにはボタンを一度押します。インジケーターはこの状態を示すために点灯します。
位相を反転させて録音されたソフトを演奏する場合の補正に便利です。

(G) INPUT ボタン

INPUT ボタンはデジタル入力を選択します。繰り返し押しますと、入力が切り替わります。入力インジケーター (J) によってどの入力が選択されているかが分かります。

順番は、

USB → AES1 → AES2 → AES1+AES2(デュアル AES) → SPDIF 1 → SPDIF 2 → USB → .....

(H) Word Clock インジケーター

W/Clock（ワードクロック）インジケーターは W/Clock In（ワードクロック）コネクターが接続されていないときにはオフとなっています。

ワードクロック信号が検知され、その周波数がオーディオデータサンプルレートと関連がある場合には、ドビュッシーはワードクロックにロックして、インジケーターが点灯します。以下の表が関連する周波数のコンビネーションです。

ワードクロック周波数	データサンプルレート
44.1 または 88.2kHz	44.1, 88.2 または 176,4kS/s
32, 48 または 96kHz	32, 48, 96 または 192kS/s

もし、信号が検知されてもそれが認識不可能か、異なる周波数の場合には、本機はデータストリームにロックし、W/Clock インジケーターは点滅してこの状態を知らせます。

(I) リモコンレシーバー

RC5 フォーマットで赤外コマンドを受け付けます。リモートは dCS 製でも、正しくコマンドコードがインストールされているプログラム可能リモコンでも構いません。リモコンをレシーバーに向けてコマンドします。

もし、リモートをプログラムしたい場合には以下のコマンドコードを使用します。

注意：dCS 社及び当社はリモコンコントロールコードを提供するのみです。このコードに関してのテクニカルサポートは行いません。尚、このコードに関して起こった問題に関しての責任は負いません。ご了承ください。

コードは全て二進法です。DAC 機能については、カテゴリーコード 13 です。

機能	コード
Volume +	16
Volume −	17
Toggle Filter	14
Toggle Phase	9
Toggle Mute	13

機能	コード
Select AES 1	3
Select AES 2	4
Select Dual AES	32
Select SPDIF 1	1
Select SPDIF 2	6
Select USB	2

機能	コード
Next Input	27
Previous Input	28
Wake	42
Sleep	41
Power Off	43

ドビュッシー DAC は USB HID インターフェイスを使用しています。メディアプレーヤー機能の一部をコントロールするものです。このコマンドはストリーミングソフトウェアによって左右されます。書き込み時、ほとんどのストリーミングソフトは早送り、早戻しのコマンドは扱わないようです。

機能	コード
Play / Pause	53
Previous Track	33
Next Track	32
Fast Forward	52
Fast Reverse	50

(J) 入力インジケーター

通常、このインジケーターは選択された入力を表示します。デュアル AES の場合には **AES1**, **AES2** とも点灯します。選択された入力からデータを受け取れない場合にはインジケーターは点滅します。

(K) サンプルレートインジケーター

サンプルレートインジケーターのコラムは本機がロックされていなければ、オフの状態のままです。本機が入力デジタルデータにロックすると、感知されたサンプルレートが点灯します。

ボリュームが調整されたとき、インジケーターの機能はボリューム設定を表示します。その場合には 10dB ステップで以下の表のように点灯します。最後に設定されたボリュームから 5 秒経つと、LED はサンプルレート表示に戻ります。

	-60dB	-50.5 ~ -59.5dB	-40.5 ~ -50dB	-30.5 ~ -40dB	-20.5 ~ -30dB	-10.5 ~ -20dB	-0.5 ~ -10dB	0dB
0dB	○ 32	○ 32	○ 32	○ 32	○ 32	○ 32	○ 32	● 32
-10dB	○ 44.1	○ 44.1	○ 44.1	○ 44.1	○ 44.1	○ 44.1	● 44.1	● 44.1
-20dB	○ 48	○ 48	○ 48	○ 48	○ 48	● 48	● 48	● 48
-30dB	○ 88.2	○ 88.2	○ 88.2	○ 88.2	● 88.2	● 88.2	● 88.2	● 88.2
-40dB	○ 96	○ 96	○ 96	● 96	● 96	● 96	● 96	● 96
-50dB	○ 176.4	○ 176.4	● 176.4	● 176.4	● 176.4	● 176.4	● 176.4	● 176.4
-60dB	○ 192	● 192	● 192	● 192	● 192	● 192	● 192	● 192

図 7：ボリュームインジケーター範囲

工場出荷時リセット

工場出荷時の設定に戻すときには、**Vol+**, **Vol−** ボタンを同時に押し続けながらリアパネルのパワースイッチを **I** にします。すべての LED が点滅します。点滅したら、指をボタンから話しますと、リセット完了です。

以下の状態となります。

Volume	−30db
Mute	Not muted
Filter	Shape filter
Phase	Normal
Input	USB

リアパネル

図 8：リアパネル

アナログ出力

個別にバッファーされているバランス出力（N）とアンバランス出力（O）を備えています。バランス出力はバランス入力とのみ接続されるべきです。もしご使用のプリアンプ、パワーアンプがアンバランス入力しか備えていない場合にはアンバランス出力をご使用ください。機種によっては XLR 入力を備えていてもアンバランスの場合があります。ご注意ください。

出力レベルスイッチ

O/P Level スイッチ（P）は出力を 2Vrms、または 6Vrms をフルスケールで設定します。システムを設定する場合には、出力レベル設定は快適なレベルが −10dB ～ −20dB になるように設定してください。

AES デジタル入力

AES1, AES2(Q) 入力はそれぞれ 32、44.1、88.2、96kS/s に対応しています。もし、両入力がデュアル AES ソースに対して使用する場合には AES1 + AES2 を選択します。一緒に使用すると 88.2、96、176.4、192kS/s のサンプルレートに対応します。

SPDIF デジタル入力

本機は 2 つのコアキシャル SPDIF 入力（R）、RCA 端子（SPDIF 1）と BNC 端子（SPDIF 2）を備え、どちらも 32、44.1、48、88.2、96kS/s のデータに対応しています。

ワードクロック入力

W/Clock In 端子（S）は標準のワードクロックをソース機器またはマスタークロックから受け取ります。レートは 32、44.1、48、88.2、96kHz です。

注意：クロック周波数はデータレートの正確な常数でなくてはなりません。そうでないと本機はロックいたしません。USB インターフェイスが選択されていない限り、ソースは同じくロックとロックされていなければなりません。そうでない場合にはシステムは同期できずに出力からクリック音が間を置いて発生されます。

ワードクロックは同期のためのみに使用され、デジタルデータは通しません。

USB インターフェイス

B タイプ USB インターフェイス（T）は USB インターフェイスが装備されたウィンドウズ PC、Mac、またはサウンドサーバーから 24 ビット、192kS/s のレートまでのデータを受け付けます。インターフェイスはアイシンクロノスモードで

動作します。これはコンピューターやサーバーのクロックジッターからドビュッシーを完全に隔離するものです。ドビュッシーは自身のクロックを使用するか、BNC **W/Clock** 端子で接続されたシステムクロックのクロッキングを使用します。USB ケーブルを通じての PC へのフィードバックはデータ運搬のレートをコントロールします。

注意：dCS は一般的なフォーマットに対して、ウィンドウズ Vista, XP, Apple Mac OSX などにおいて広範囲の PCM ストリーミングプログラムの検証を行いました。しかし、dCS, その代理店は全てのソースデバイス、オペレーティングシステム、またはソフトウェアからの動作についての責任を負いかねます。

*注意：**USB** インターフェイスはコンピューターやサウンドサーバーと動作するために設計されたものです。このインターフェイスを MP3 やフラッシュスティックに直接繋いでも何も便利なことは起こりません。*

ラベル

ラベル（U）はシリアル番号と電圧が表示されています。問題、ご質問などのお問い合わせの際にはシリアル番号を必ずお伝えください。

テストコネクター

TEST コネクター（V）は RS232 インターフェイスです。これは主に dCS オートテストと結線して検査する場合に使用します。

電源プラグ入力

電力は標準 IEC320 コネクター（W）によって接続されます。ヒューズ （X）と隔離された 2 極パワースイッチ（Y）によって保護されています。

リモコン

DAC をスリープモードにするには Sleep ボタンを 2 秒押します。もう一度 Sleep ボタンを押すと作動モードに戻ります。

スリープモードにしてから、OFF ボタンを押すと電源オフになります。

フィルターボタンは（Filter）ソース機器とロックしている場合に押すとフィルター設定を変更します。

Input +、Input − ボタンによってデジタル入力を変更します。サイクル動作をします。

Vol+、Vol− ボタンによってボリュームレベルを調節します。

Mute ボタンはアナログ出力をオン、オフにします。

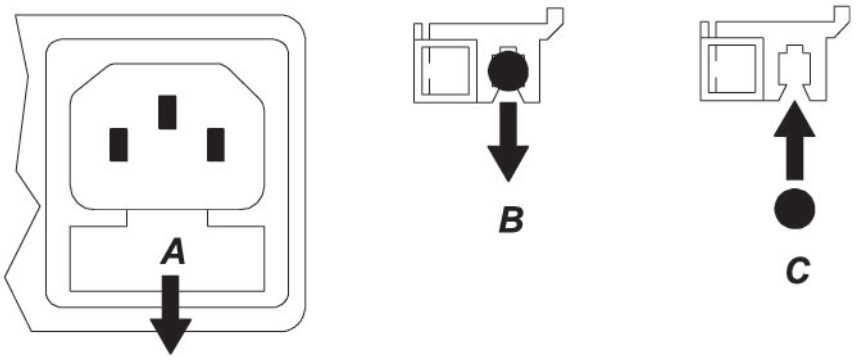
その他のボタンは本機以外の dCS 機器に使用するものです。

ドビュッシーが完全にオフの状態の時にはリモートコントロールでは立ち上げることはできませんので、フロントパネルのパワーボタンを押してオンにしてください。OFF ボタンはシステムがスリープモードの時のみに作動します。

メンテナンス

dCS のオーディオ機器は特に定期的なメンテナンスを必要としません。
全てのサービスおよびアップグレードは dCS 社または当社のみが行います。

ヒューズの交換



電源ソケットの下にあるヒューズ・ホルダー内にヒューズがあります。ヒューズが飛んだ場合、ヒューズが飛ぶような要因となる障害がないか、まず確認してください。もし障害があるようであれば、まずその障害を取り除いてください。もう障害がないと考えられた段階でヒューズを交換し、再度電源を入れてみてください。
（20×5mm 0.5A ＴＬヒューズ）

もし連続して飛ぶようであれば、不具合の可能性がありますので直ちに使用を中止し、お買いあげのオーディオ販売店か当社までご連絡下さい。

重要：ヒューズが飛んだときは、必ず同じタイプの物と交換してください。異なるタイプの物と交換することによって製品にダメージを与えたり、引火したり、電気ショックの原因になったりすることがあります。このような場合保証の対象とはなりませんので、ご注意下さい。

ヒューズを交換する

ヒューズを交換するとき、まず電源ケーブルを抜き、小型のマイナスドライバーでヒューズ・ホルダーのタブ（A）を引っ張り出します。ヒューズ・ホルダーのクリップから飛んだヒューズ（B）を押し出し、新しいものに交換（C）してください。ヒューズ・ホルダーを本機にカチッと音がするように戻してください。スペアのヒューズは製品に同梱されています。

重要：ヒューズを交換する前に電源を切り、電源ケーブルを抜いてから行ってください。

保証

当社はお買い上げ時より一年間、本機の不良または正常なご使用状態で起きた故障等は保証書記載事項に基づき、無償修理いたします。

以下の場合には保証が適用されませんので、ご注意ください。

・いかなる場合でも本機が誤って使用された場合。
・dCS、当社以外の手によって改造や修理が行われた場合。
・マニュアルの使用環境に従っての使用がなされていない場合。
・グランド電源を使用しない場合。
・不適切な梱包によって返送された場合。

問題が発生した場合にはモデル名、フルシリアル番号、ソフトウェアバージョン、問題点の出来るだけ詳しい内容を販売店、または当社にお知らせください。修理のためご返送いただく場合には、オリジナルの梱包が安全ですので、梱包材はお手元に保管ください。梱包材が無い場合には有償でお貸し出しいたします。

使用環境

・リアパネルに表示してある電圧（100v）の ±10%。
・交流電源 49 ～ 62 サイクル
・使用温度　0℃～ 40℃
・以下に述べる機器近辺に設置しないこと：暖房機、空気ダクト、パワーアンプ、直射日光
・ご心配の点があれば簡単なテストとして、本機は人間が快適な環境であればまず間違いなく動作します。

ソフトウェア・アップデート

ソフトウェアアップデートは必要に応じて弊社よりご登録いただいたお客様へ直接更新のご案内をさせていただきます。お買い上げいただきましたら速やかにご登録をお願いいたします。

ソフトウェア

ソフトウェア・イシューの確認方法

ドビュッシー DAC はディスプレイを備えていません、しかしコンピュータに USB 接続すれば、ソフトウェア・イシューを確認することが出来ます。

Windows XP：本機を接続したら、電源を入れ、″ **スタート** ″ > ″ **コントロールパネル** ″ > ″ **システム** ″ に進みます。 ″ **ハードウェア** ″ タブをクリックし、″ **デバイス マネージャ** ″ をクリックします。 ″ **サウンド、ビデオ、およびゲームコントローラ** ″ をダブルクリックし、″**USB オーディオデバイス** ″ をダブルクリックします。″ **詳細** ″ タブをクリックし、ドロップダウンリストの ″ **ハードウェア ID**″ を選択します。 最初の行に ″**Rev_**″ が含まれた、ソフトウェア・イシューが表示されます。例えば、下図であれば、Rev_0103 と表示されていますので、ソフトウェアイシューは ″1.03″ です。

Windows Vista / Windows 7：本機を接続したら、電源を入れ、″ **スタート** ″ > ″ **コントロールパネル** ″ > ″ **システム** ″ に進みます。 ″ **デバイス マネージャ** ″ をクリックします。 ″ **サウンド、ビデオ、およびゲームコントローラ** ″ をダブルクリックし、″**USB Debussy**″ をダブルクリックします。″ **詳細** ″ タブをクリックし、″ **プロパティ** ″ 内のドロップダウンリスト ″ **ハードウェア ID**″ を選択します。 最初の行に ″**Rev_**″ が含まれた、ソフトウェア・イシューが表示されます。

Mac OS X：本機を接続したら、電源を入れ、″**Finder**″ を開き、″ **移動** ″ タブをクリックし、″ **ユーティリティ** ″ を選択。ユーティリティーパネルの中から ″ **システムプロファイラ** ″ を選択、ハードウェア内の ″**USB**″ クリックします。″**USB バス** ″ の ″**dCS Debussy**″ を選択。ソフトウェア・イシューが表示されます。

ソフトウェア・アップデート

dCS の製品は必要に応じてソフトウェア・アップデートのサービスを行っております。
ソフトウェア更新の際にはご登録いただいたユーザーの方へ郵送にてご案内させていただいておりますので、ユーザー登録を行っていただきますようお願いいたします。
ソフトウェア・アップデートについてご不明な点がございましたら、弊社までお問い合せください。

仕様

コンバータータイプ	5ビット、3MS/s オーバーサンプル、リングダック構成
デジタル入力	USB インターフェイス（B タイプコネクタ） AES/EBU(XLR) 2 系統 SPDIF(RCA) 1 系統 SPDIF(BNC) 1 系統
クロック	ワードクロック入力 (BNC)1 系統 ワードクロック出力 (BNC)1 系統
周波数反応 （フィルター1の場合）	Fs = 32kS/s +/0.1/−0.5dB, 10Hz _ 15k Hz Fs = 44.1, 48kS/s +/−0.1dB, 10Hz _ 20k Hz Fs = 88.2, 96kS/s +/−0.1dB, 10Hz _ 20k Hz Fs = 176.4,192kS/s +/−0.1dB, 10Hz _ 20k Hz
残留ノイズレベル	−110dB 以下 20Hz _ 20k Hz(unweighted)
スプリアス反応	−100dB 20Hz ～ 20k Hz
クロストーク	−80dB 以上 20Hz ～ 20k Hz
出力レベル	2V rms, または 6V rms（全出力）メニューで変更
バランス出力	XLF(M) 1系統（ピン2＝ホット、ピン3＝コールド） 電気的バランス、フローティング。 出力インピーダンス 3Ω、最大負荷は 600Ω（10kΩ 推奨）
シングルエンド出力	RCA 1系統 出力インピーダンス 52Ω 最大負荷は 600Ω（10kΩ 推奨）
電源電圧	100V 50/60Hz
最大外形寸法	W 445 × H 65 × D 392 mm
重量	8.8kg

※ 本機の仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

問い合わせ先

株式会社太陽インターナショナル

〒 103-0027

東京都中央区日本橋 2-12-9 日本橋グレイス 1F

TEL :　03-6225-2777（代表）

　　03-6225-2779（サービス課）

FAX :　03-6225-2778

ホームページ :　http://www.taiyo-international.com

09-01-2010